

レスキューパラシュートマニュアル

SKY DRIVE

スカイドライブ

Sky Paragliders,a.s
Kadlcakova 1466
739 11 Flydlant nad Ostravici

内容

第一章

Sky Drive レスキューパラシュート技術仕様

- 1) 使用目的
- 2) 技術仕様
- 3) デザイン
- 4) 保証
- 5) パラシュートの耐久性
- 6) 使用条件
- 7) 格納期限
- 8) パラシュートの格納
- 9) パラシュートの開傘
- 10) パラシュートの部品
- 11) 各部品の技術仕様
- 12) 素材

第二章

パラシュート使用のための解説

- 1) テイクオフ前の準備
- 2) パラシュートの開傘

第三章

パラシュート保管

- 1) 保管基準

第四章

パラシュートパッキング

第一章

SKY DRIVE レスキューパラシュート技術仕様

1) 仕様目的

SKY DRIVE パラシュートはパラグライダー用に開発され、パラグライダーハーネスにセットされる。

2) 技術仕様

キャノピー面積	26m ²
自重	2.4kg
最小、最大飛行重量	70-110kg
開傘時の最高許容速度	115km/h
飛行重量 110kg 時の最大落下速度	5.3m/s(19.1km/h)
飛行重量 110kg 時の最大前進速度	5.4m/s(19.4km/h)

3) デザイン

パラシュートはスタンダードな色で生産されているが、カラーに関してオプションで注文できる。

いろいろな色が可能である

4) 保証

保証期間は、購入日から 6 ヶ月。以下の時は保証の対象とはならない。

ユーザーが違反したパッキング、保管、処置をした場合

パラシュートの設計および使用目的以外の使用で、損傷を受けた時

パラシュートが、他の機材、木、他固定器具から損傷を受けた場合

5) パラシュートの耐久性

パラシュートに傷みや損傷が見つかった場合、メーカーかディーラーにすぐ連絡してほしい。

パラシュート使用者は、毎使用後にチェックすること。また、10 回開傘したら、メーカーか、資格の持った人に検査してもらうこと。

6) 使用条件

パラシュート開傘保証条件は、-40 度 C から +80 度 C までで、湿度はこの温度に準じた湿度であること。パラシュートは、最大速度 115km/h で設計されている。

7) 保管期間

パラシュートの使用前の最大保管期間は1年以内が望ましい。

8) パラシュートの格納

このパラシュートは、パラグライダーハーネスに格納するよう設計されている。パラシュートは、ハーネスと少なくとも強度4500Nの金具で接続されている。Rと書かれているほうを右側に接続し、コントロールハンドルはハーネスの後ろにくるようにセットする。左も同じようにセットする。レスキューパラシュートのハーネスコンテナーへの格納は、ハーネスの仕様に従うこと。パラシュートは、お尻の下部分、サイド部、およびフロントにセットできる。

資格保持者もしくは、メーカーのみが、ハーネスに格納することが出来るものとする。

9) パラシュートの開傘

レスキューパラシュートは、パラグライダーの安全用具として使用される。パラシュートは、コンテナーに格納されているパラシュートに接続された取っ手を引っ張り、リリースすることによって開傘する。パラシュートは、以上のように投げるが、グライダーに絡まないようにする。パラシュートコンテナーがサイドに投げられ、それにつれてコードが伸び、パラシュートがコンテナーから離れ、空気が入り膨らむ。パイロットは十分高い位置で投げ、気象条件が良いことが望ましい。レスキューの操作ハンドルは、障害物を避けたり、適切な場所に降りるために使用する。

10) パラシュートの部品

パラシュートは以下の部品から出来ている。

1. パラシュートコンテナー
2. キャンピートコード
3. 接続金具
4. Hの形をしたサポートストラップ
5. コントロールハンドル

11) パラシュートのそれぞれの部品の技術仕様

11.1 コンテナー

コンテナーはキャンピートとそのコードを格納するものである。フックがコンテナーのサイドおよびセンターについている。コンテナーは横方向に2方向に開くカバーと、上面に一個のカバーを持っている。コンテナーはゴムの輪を通して、ループしたコードを入れ込み、閉めるものとする。

11.2 キャンプーとコード

キャンプーはポリアミッドで、防水係数0.31の生地で、2.6m²である。デルタの形をしたキャンプーに4列、22箇所接続されている。コードからの力は、キャンプーの補強ストラップ(13-25mm)によって、キャンプーに分散されている。他の応力は、13mmのストラップで補強されている。

11.3 接続金具

接続金具は、サポートストラップのエンドについている。コードと接続する金具で、強度の保証は最小4500Nである。

11.4 サポートストラップ

Hの形をしたサポートストラップは、ハーネスと接続するもので、Rの印は、右側のストラップにマークされている。

11.5 操作ハンドル

コントロールコードは、パラシュートの操作に使用し、操作ハンドルに接続されている。

12) 素材

素材のタイプ		メーカー	使用場所
ポリアミッド	9024	ポルシェマリン	生地
ポリアミッド	ストラップ 13mm	スタップ	生地補強
ポリアミッド	ストラップ 25mm	スタップ	生地補強
ポリアミッド	ストラップ 15mm	スタップ	生地補強
ポリアミッド	コード 径4mm	Lanex Bolatice	サポートコード
ポリアミッド	ストラップ 25mm	A.Mouka	サポートストラップ
接続金具	4500N	Peguet	ストラップ/コード接続用
ポリプロピレン		Techhnolen	コンテナ材料

第2章 使用説明

1) テイクオフ前の準備

テイクオフ前には、レスキューパラシュートとリリースシステムを点検すること。もし、不具合が見つかったら、テイクオフはしないこと。

2) パラシュートの開傘

レスキューパラシュートは、グライダーが安全に着陸できないようなダメージを受け、または、グライダーが不完全な状態である時使われる。レスキューパラシュートは、レスキューが格納されているコンテナにつながっている取っ手を引き、そのコンテナをサイドに投げる。投げる時、パラグライダーに絡まないように投げる。コンテナがサイドに投げられ、それが開くと、コードが伸び、レスキューパラシュートが離れ、空気をはらんで膨らむ。このとき、レスキューパラシュートは完全にその効果が出る。パラグライダーはレスキューパラシュートに影響を与えないよう潰されていること。パラグライダーがクイックカラビナではずすことが出来るなら、そのグライダーを切り離し、着陸はレスキューパラシュートだけが望ましい。レスキューパラシュートは、前への速度を増加しているので、不適切な操作は、パラグライダーとレスキューパラシュートを絡ませる原因になる。

3) パラシュートのコントロール

パラシュートはストラップについているコントロールハンドルで操作する。レスキューパラシュートの性能は、緊急着陸用に十分にハンドリングできるようになっている。操作は簡単で、右を引けば右に、左を引けば左に曲がる。両方の操作ハンドルを同時にゆっくり引くと、パラシュートの前進速度は落ち、少しずつ降下をはじめる。すなわち、着陸前のこの操作は、リフト成分を上げ、グライダーのようなソフトランディングが出来る。操作の妨げになるような不必要な動作は避け、余計なハンドル操作は、着陸時にスイングを起こし危ないものとなる。潰れたグライダーを持って、フライトしたり、着陸する時は、片手でレスキューパラシュートを操作してほしい。片手は、潰れたグライダーをコントロールし、レスキューパラシュートに影響を与えないでほしい。もし、条件が許すなら、着陸は風に向かって行ってほしい。着陸の際、旋回は風に向かって行い、高さが40mない時は旋回操作をやめてほしい。

第 3 章 パラシュートの保管説明

1) 保管条件

パラシュートは乾いて、暗く、風通しの良いところに保管する。一年以上保管する時は、パラシュートは、パッケージから出してほしい。パラシュートは、酸性物質、オイル、希釈材、他 害するようなもののそばには置かないこと。

レスキューパラシュートパッキング説明 SKY DRIVE

1) パラシュートの点検

パッキング前には、じっくり点検し、損傷が見つかった時は使用しないこと。

2) コードの点検

パラシュートをパッキングテーブルに、パラシュートの前部を上にして置き、コードをセパレートし、コードを整理する。もしコードが絡まっていたら、直してほしい。

コードを右、左、真中に、キャノピーとの接続部を見て分けてほしい。センターコードは 2.5cm のストラップで補強されているパラシュートセンター部につながっている。

キャノピーのトレーリングエッジを下にし、リーディングエッジを上しておく。キャノピーの接続部がフリーになっていることを確かめる。キャノピーは F,F1,E,E1,D,D1,C,C1,B,B1,A の順番になっていることを確認する。キャノピーのセンター部の一番前のコードがコネクタ金具の最初のコードで、センター部の最後のコードがコネクタ金具一番最後に接続されている。

3) センターコードをキャノピーの右側に整理する。

センターコードを F,E,D,C,B,A の順に伸ばし、右側キャノピーに寄せる。トレーリングエッジからリーディングエッジの順にパネルを並べる。このとき、下から順番に左から右にコードを並べる。

4) Fig3 を参照し、パネルの三角部を内側に折、残り全体をパネルセンターに沿って平行に折る。F のマークがついたセンターコードを最初にパッキングする。(F-F1-E1)

最初のたたむための相手コードは F1 で、たたむ部分は F と F1 に挟まれた部分である。最初のパネルの補強エッジをセンターコードに沿って折りこむ。残りの三角部分も同様に、センターに沿って折りこむ。

同様に次の部分 E1 を重ね、広げ、その三角部分の底のエッジをセンターに沿って折りこ

み、残りの三角部分をセンターに沿って折りこむ。コードはいつも引っ張っておくこと。

5) 次のセクションを広げ同様に行う (E1-D1)

次のコード D1 を F1 に置き、最初の三角部分をセンターに沿って折りこみ、残りの三角部分も同様にセンターに沿って折りこむ。

6) 次のセクションも同様に行う。(D1-C1)

C1 を D1 の上に置き、同じように行う。

7) 次のセクションを広げ同様に行う (C1-B1)

B1 を C1 の上に置き同様に行う。

8) 次のセクションを行う (B1-A)

A を B1 の上に置き、同様に行う

9) ウェイトをたたんだ上に置く。

反対側の部分も同様にたたむ。

10) キャノピーを三分の一にたたむ

左、右の部分のコードが絡んでないことを確かめる。チェックの後、センターを中心に三分の一にたたむ。パラシュートコンテナに合わせて、キャノピーを S 字形にたたむ。たたんだ状態はピラミッドになる。

11) パラシュートをコンテナに収納する時、コードを S 字型に輪ゴムで束ねる。コンテナを閉じるためにゴム輪をサイド、トップと通し、最後にコードをそのゴム輪に通す。

注意！ゴム輪にストラップとコードをいっしょに通してはいけない。

12) 最後に、コンテナの開きテストをする。ストラップを持ち、持ち上げた時、コードの最後までほどけ、コンテナが開けば、正しいセットである。

もし、うまくいかなければ、正しくないなので、よく項目 11) を参照してください。

13) もう一度 項目 11) にしたがってコンテナを閉じてください。

重要：もし、パッキングのとき重りとかその他の工具を使った時、中に忘れていないか最後に工具の数など確認してください。

レスキューパラシュートの中に工具、重りなど忘れないように！

14) レスキューパラシュートをハーネスのコンテナにハーネスの仕様にしながら収めてください。レスキューパラシュートは、一般的な場所に格納できます。(フロント、後ろ、サイド)

ハーネスへのセットは、資格のある人、メーカーなどに頼んでください。

レスキューパラシュートをハーネスのコンテナに収める

- ハーネスについているレスキュー用取っ手のコードを、レスキューパラシュートコンテナのフックに通し、取っ手とレスキューコンテナを接続する。
- レスキューパラシュートのコンテナを、コードの S 字部分 (ストラップ部分) を下にしてハーネスのコンテナにセットする。
- ハーネスのコンテナを閉じるために約 40 cm の紐を必要とする。
- その約 40 cm の紐で、ハーネスコンテナのフラップ (カバー) の金属穴を通して、最後まで通す。
- 最後まで紐を通し、最後のフラップ (カバー) のところで、出てきたフックに金属のピンを通す。
- 40 cm の紐を引き抜く。
- 取っ手をハーネスのベルクロに貼り付ける。
- ハーネスコンテナの四隅を押して、レスキューパラシュートがフラップの中にきれいに納まるようにする。